

第3学年 学級活動（3）学習指導案

日時 令和6年6月26日（水）

5校時 13：30～14：15

対象 第3学年2組 35名

1 題材名 「いいところみつけをしよう」

2 題材の目標(キャリア教育の目標)



自分の個性を捉え直し、よさを見つけようとする態度を育てる。

3 題材の評価規準

よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
・自分の個性を多角的に捉えている。	・他者と協力して、自分の個性を捉え直し、自己理解を深めている。	・自分の個性を多角的に捉えようとしている。 ・他者と協力して、自分の個性を捉え直し、自己理解を深めようとしている。

4 題材設定の理由

(1) 教材観

学習指導要領の目標及び内容の取り扱いとの関連は以下の通りである。

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のおり資質・能力を育成することをめざす。

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

学級や学校での生活づくりに主体的に関わり、自己を生かそうとするとともに、希望や目標をもち、その実現に向けて日常の生活をよりよくしようとする。

本時では、児童自身が自分のよさを見付けることができることを目的としている。しかしながら、3年生1学期の児童にとって、自分のよさについて考えること、自分のよさを見付けることは容易なことではない。そのため、学級活動（3）を中心とした学習過程の工夫を講じることで、自己のキャリア形成に役立てることを考えた。

本時の前には特別な教科道徳において、その人のよさとはどんなものなのか、改めて考える。そして本時の学級活動（3）では、リフレーミング表を用いたり、友達と交流したりしながら自己のよさを見

付けられることを目指す。また、友達と交流して、それまで気付いていなかった自己の「よさ」を発見できることを目指す。そのため学習の流れを振り返ることができ、自己のよさについて再発見できるようなワークシートを作成する。このことによって、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりすることができる児童の育成を目指す。

その後、国語科「仕事のくふう、みつけたよ」において、単に興味がある仕事を選ぶだけでなく、本学習過程で捉えた自己のよさを踏まえて調べる仕事を選択することで、目指す将来の自分により近付けることを目指している。

本学習を実践するにあたっては、教師側が講じた学習活動の工夫が児童の思考とかみ合わないことが考えられる。例えば、複数回にわたって自分のよさを考えたり、友達と交流したりすることが児童にとって、必然性児童のニーズや思考と合わず、児童が受け身の学習になってしまうことも考えられる。そこで、事前にアンケートを行うことによって児童の実態を把握すると共に、得られた結果を基に次時の学習活動につなげていくことによって、児童の思考に沿った問題解決的な学習になることを目指す。

○事前・事後の指導

教科・時数	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
特別な教科 道徳	・教材文を読み、自分のよさを見付けるためには、どのような気持ちが大切かを考える。	・自分が頑張っていることがあるのかどうかを問いかけ、好きなことを頑張ることが、自分のよさにつながると気付けるようにする。	・自分のよいところやがんばっていることについて、自分を見つめている。
学級活動(3) (本時)	・リフレーミング表の中で、自分に当てはまるところに○をつける。 ・友達と交流しながら、自分のよさを多角的に捉える。	・特別な教科道徳で自分のよさを捉えた経験を通して、さらに自分のよさを深めることができるように、自分を捉え直す時間を設ける。 ・小グループでの話し合い後、自由に意見を交流させることで考えを広げ、さらに自分のよさについて考えを深める。	・他者と協力して、自己の特徴を捉え直し、自己理解を深めている。 ・自分のよさを捉え直し、自分の長所を見付けようとしている。 (記述・観察)
国語科 1 時	・身の回りの知っている仕事や知りたと思う仕事を共有する。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。	・単に興味のある仕事を選ぶだけでなく、自分のよさを生かした仕事にはどんなものがあるか、という視点で調べる仕事を選択し、調べたことを報告文にまとめられるようにする。	・相手や目的をいしきして書くことを選び、学習の見通しをもって調べたことを報告する文章を書くとしている。 (発言・記述)

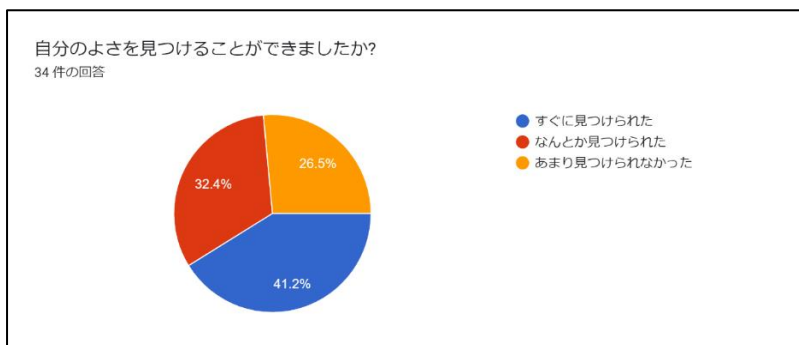
(2) 児童観

本学級の児童は、素直で明るく、友達に優しい言葉がけができる児童が多い。3年生という、個から集団へと活動形態が変わっていく段階の学年となり、お互いに称え合ったり、認め合ったりする姿が見られる。また、当番活動や係活動を積極的に行い、クラスや他の児童のために何かしようと楽しみながら生活している。本題材を通して、不安や心配の解決のための目標を立てて行動することにより、現在の生活をよりよくすることの大切さについて理解し、自己のよさや実現できそうな目標を具体的に考えることができるようにする。

本時を実施するにあたり、道徳の授業後に児童が自分のよさについてどのように考えているのか、事前にアンケートを行った。

アンケートの設問は、以下の3つである。(対象児童2組35名)

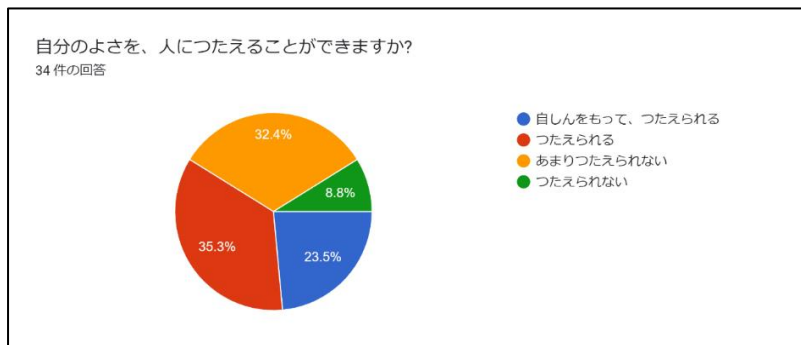
①自分のよさを見つけることができましたか



①の設問では、7割ほどの児童が自分のよさを見付けることができている。

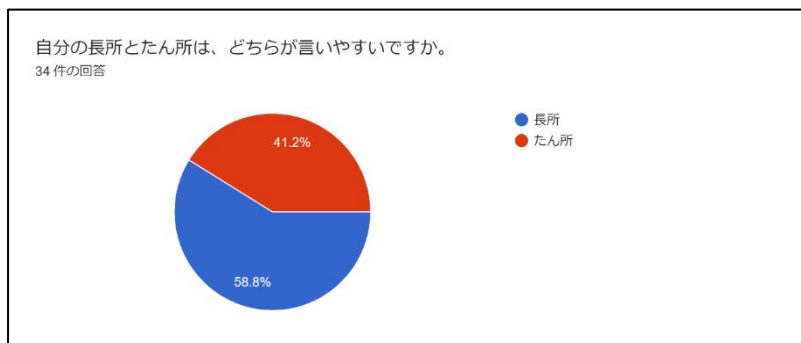
②と③は本時への布石である。②の設問は、自分のよさは見付けられるものの、人に伝えるほど自信がない児童を想定している。その場合どうすれば自信がもてるのか話し合い、本時の交流活動につなげることを意図している。

②自分のよさを、人につたえることができますか。



また、③の設問では、自分のよさを見付けられない児童がいることを想定している。そのような児童でも、短所なら言えるのではないかと考え、本時では短所を長所に捉え方を変える

③自分の長所とたん所は、どちらが言いやすいですか。



「リフレーミング表」を活用した。

このようにして、事前アンケートを授業に生かし、自分の特徴を多角的に捉えられることを目指した。

(3) 指導観（教師の願いと指導の工夫）

本時は、特別な教科道徳、学級活動（3）、国語科、の3つの教科領域を横断した学習である。それぞれの教科領域の目標を達成しながら、研究テーマである自己理解について深めていく。この学習を通じて、児童が自分自身の興味・関心やよさなどの個性について考え、自己理解をより深めることを目指している。

自分のよさを見付けるといっても、そもそも見付けることが難しかったり、人に言われても本当にそうなのかわからなかったりする場合がある。自分のよさに気付いて自己肯定感を高めることを期待されているが、その道のりは単純なものではないと考えている。

そのため、各教科領域で自分自身や自己のキャリアを意識することができるように段階を踏んだ学習過程を通じて、自己について多角的に考え、自分のよさを見付けることができる児童に育ってほしいと考えている。

このようにして自己のよさを考え、見付けることは、自分に自信をもったり、更なる課題に努力し続ける粘り強さを高めたりすることにつながる。そのことが「今の自分のよさを将来に生かしたい。」「将来こんな仕事をしてみたい。」など、将来に明るい希望や目標をもつことにもつながると考えている。

5 キャリア教育の目標に迫るための手立て



自分たちの思いや考えをもつ **見つける力**

①カリキュラムマネジメントの視点

研究テーマである自己理解を深めるために、前述した、特別な教科道徳、学級活動（3）、国語科の3つの教科領域を横断した学習を計画した。

特別な教科道徳では「自分のよさ」が特別に秀でているものだけでなく、自分の得意なことや続けていることも「よさ」といえるものだということを認識し、自己を見つめ直す機会とする。

そして、学級活動（3）では、自己内対話（リフレーミング）に加え、他者との交流を通じて自己の「よさ」について見つめ直し、自己理解を深めることを目的とする。

さらに、国語科「仕事のくふう、みつけたよ」において、自分のよさを生かした仕事にはどんなものがあるか、という視点で調べる仕事を選択し、調べたことを報告文にまとめていく。

このような過程を通じて、各教科領域において様々な視点から自己を見つめなおし、キャリア教育の目標である「自己理解」を深めていくことを想定している。


②資料の活用 ～リフレーミング表～

道徳では教材文の登場人物の姿を自分に置き換え、自分のよさを考えた。しかしながら、アンケートの結果から、道徳後も自分のよさがなかなか見付けられない児童がいることが明らかになった。

よいところは見付けられなくても、自分の短所なら言えるという児童がいる。本時では、自分では一見短所だと思っていることでも、見方によっては「よさ」に変換することができることを知るために、リフレーミング表を活用する。そのようにして、自分のよさを見付けるために、自分を様々な角度から見つめ直す活動を通して、自己理解を深めていくことを目指す。

6 本時（1／1）3年2組 授業者 渡邊 藍香

(1) 本時のねらい（キャリア教育の目標）

 自分の個性を捉え直し、よさを見つけようとする態度を育てる。

(2) 本時の展開

	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ◇評価基準 ★キャリア教育の目標に迫るための手だて
導入 (つかむ)	<p>1 道徳での学習やアンケートを振り返り、課題を確認する。</p> <p>○道徳では自分のよさについて考えました。その後に取り組んだアンケート結果を見てみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のよいところは見つかったけど、伝えることには自信がない。 ・よいところと言っていいのか迷った。 <p>○自分の中で「もう少し」だと感じているところは、よさにつながるのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した特別な教科道徳のワークシートやアンケート結果を見て振り返り、本時のめあてや活動に必然性を感じさせる。
友だちや自分のよさについて考えよう。		
展開 (さぐる・見つける)	<p>2 リフレーミング表を使って自分のよさを深める。</p> <p>○自分のよいところに自信をもったり、さらに自分のよさを見付けて考えたりできるように、言いかえ表の中で、自分に当てはまる個所に印をつけましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「だらしない」とよく言われるけど、「ゆったりしている」と言いかえることができる。 ・「マイペース」だけど「自分の世界を大切にする」ってことだ。 ・いつも決めるのが遅いけど、じっくり考えられるというよさなのか。 <p>3 友達の頑張っていることやよさを伝え合う。</p> <p>○自分では気付かないよさもあるかもしれません。まず自分のよさや頑張っていることを伝え、次に友達のよさや頑張っているところを教え合ひましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんは、いつも手を挙げて発表しているから、積極的だね。 ・〇〇さんは誰に対しても優しいね。 ・人に合わせてあげられることは、相手を大切にできるとことだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な教科道徳で自分のよさを捉えた経験を通して、さらに苦手や弱点も含めて自分のよさを深めることができるように、自分を捉え直す時間を設ける。 <p>★リフレーミング表の活用</p> <p>自分の長所が思いつかない児童には、リフレーミング表を基に、短所も長所に変換しながら考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小グループでの話合いの後、自由に意見を交流させることで考えを広げ、さらに自分のよさについて考えを深める。 <p>★友達との交流活動</p> <p>自分だけでは気付かなかった視点から、自分のよさを捉え直せるように、友達によさを見つけてもらう時間を設ける。</p>

		◇他者と協力して、自己の特徴を捉え直し、自己理解を深めている。 (記述・観察)
まとめ (決める)	<p>4 本時の学習のめあてについて振り返る。</p> <p>○今日は友達や自分のよさについて考えましたね。自分のよいところはみつかりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに見つかった。 ・あまり見つからなかった。 <p>○自分のよさについて、さらに考えてどう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達からも言われて、サッカーが得意だと思った。 ・リフレーミング表から、自分のよさをさらに見つけることができた。 	<p>◇自分のよさを捉え直し、自分の長所を見付けようとしている。</p> <p>(記述・観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な教科道德の授業の時と比較して、振り返りで本研究の変容を見る。


7 板書計画

●自分のよさについてさらに考えてどう思いましたか。

○自分のよさを見つけれましたか。
すぐ見つけられた
なんとか見つけられた
見つけられなかった

②友だちとよいところを伝え合う。

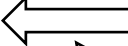
①リフレーミング表



友だちや自分のよさについて考えよう。

自分のよさを言える 人

・ちがうと言われそう。
・じしんがない。



自分のよさをすぐに見つけられた 人

8 成果と課題

〈成果〉

- ・リフレーミング表を使うことで、「自分ごと」として考える児童が増えた。
- ・カリキュラムマネジメントの視点をもつことによって、キャリア教育としてもカリキュラムマネジメントの視点は有効だと実感した。
- ・自分だけでなく、人のよいところにも目を向けることができた。
- ・「自分のよさをみつける」ことを一年間日常生活で続けることによって、行事や普段の生活でよさを活かそうという自動が増えた。
- ・「続けていることもよさ」という視点はキャリアパスポートにも活かすことができている。

〈課題〉

- ・リフレーミング表を授業後に継続して、日常的に使うことはなかった。